

★ 歴代ノーベル賞受賞者の名言・哲学に触れてみませんか！？

10月1日、スウェーデンのカロリンスカ医科大は、今年のノーベル医学生理学賞を、京都大の本庶佑（ほんじょ たすく）特別教授と米テキサス大 MD アンダーソンがんセンターのジェームス・アリソン博士に贈ると発表しました。ご存知のとおり、“がんの免疫療法”という、もともと人間が持っている免疫力を利用した第4のがん治療の道を切り開いた功績は多大なものがありますが、今後はさらなる研究開発によってがん治療だけでなく、免疫細胞が暴走して体内の正常な細胞を傷つけてしまう“自己免疫疾患”と呼ばれる病気の治療にも役立てられることが期待されています。

ノーベル賞の受賞が決まり、時の人となった本庶教授は様々なメディアに引っ張りだこですが、その発言は非常にインパクトのあるものでした。その中でも私たちの心に特に響いた、本庶哲学とでも言うべき代表的な二つの言葉に注目したいと思います。

① 教科書を（安易に）信じてはいけない、常に疑え！

特に科学分野の研究に携わる者に当てはまると思われますが、教科書はその教科書が作られた時点で明らかになっている科学技術水準で編集されているわけですから、その時点では分からなかったことが後になって判明することが多々あり、それによって今までの定説が覆る可能性があるということでしょうか。

② 必要なのは「好奇心」「勇気」「挑戦」「集中」「継続」「確信」！

6つの「C」と言われていますが、「好奇心（Curiosity）」を大切に、「勇気（Courage）」を持って困難な問題に「挑戦（Challenge）」し、全精力を「集中（Concentration）」させ、諦めずに「継続（Continuation）」することで必ずできるという「確信（Confidence）」が生まれる。その結果、時代を変革するような研究を世界に発信することができる、ということのようです。この哲学は、私たちが仕事を進める上でも共通する部分が多く、仕事と向き合う姿勢を改めて考えさせられた方が多かったのではないのでしょうか。

このように、ノーベル賞受賞という偉業を達成した歴代の受賞者の言葉には、私たちが充実した人生を送る上でのヒントが数多くちりばめられているように思います。以下にその言葉をいくつか拾ってみましたので一人ひとり味わってみてください。

- 学べば学ぶほど、自分がどれだけ無知であるかを思い知らされる。自分の無知に気付けば気付くほど、より一層学びたくなる。（1921年物理学賞 アインシュタイン）
- 誰かを信頼できるか試すのに一番よい方法は、彼らを信頼してみることである。（1954年文学賞 ヘミングウェイ）
- 成功は幸せの鍵ではありません。幸せが成功の鍵です。もし自分のしていることが大好きなら、あなたは成功しているのです。（1952年平和賞 シュバイツァー）
- 働かなければ我々は腐ってしまう。しかし、魂なき労働は我々を窒息死させる。（1957年文学賞 カミュ）
- 挫折や失敗こそ新たな変化へのチャンス。失敗は決して恥ずかしいことではない。恥ずかしいのは失敗ではなく、失敗を恐れて何もしないこと。（2012年医学生理学賞 山中伸弥）
- 人間が賢いかどうかは、その経験のいかんによるものではない。その経験をいかに活かすかによるのである。（1925年文学賞 バーナード・ショー）
- どんな大きな流れも、きっかけは一人の小さな行動から生まれます。もしあなたが「自分には大したことなど出来ない」と思ってしまったら、それは世界にとって大きな損失になるのです。（1989年平和賞 ダライ・ラマ 14世）
- どんな人にあっても、先ずその人の中にある美しいものを見るようにしています。この人の中で一番すばらしいものは何だろう？そこから始めようとしています。そうすると、必ず美しいところが見つかって、私はその人を愛することができるようになります。これが私の愛の始まりです。（1979年平和賞 マザー・テレサ）
(工藤克己)